

編集後記（第16号）

先場所の大相撲千秋楽をテレビで観ていて、横綱稀勢の里が優勝した後に、会場で歌われた君が代を聴いて「君が代って、こんなにいい曲だったんだ」と初めて想いました。稀勢の里が男泣きすると、私も涙が出て来ました。オリンピックで日本人が他国の選手を退けて演奏された君が代を聴いてもそこまで感激したことはなく、むしろ辛気臭い曲だなと思っていました。横綱の勝ち負けが問題なのではなく、人が真っ当に生きていくためには、地についた、国民(nation)の共同体の物語が必要なのだと気が付きました。

イギリスのEU離脱に続き、アメリカの大統領選でトランプが勝利したことに対し、特にマス・メディアでは、「ポピュリズム」、「排外主義」と非難する声が圧倒的で、EU離脱に投票したイギリス人やトランプに投票したアメリカ人の選択には理があったという意見はあってもかき消されて、むしろ投票結果に対し暴動を起こした一部アメリカ人に理があるという報道がなされていました。

EU離脱やトランプに賛成票を投じた人々は、愚かだったのでしょうか。はたしてグローバル化は歴史の必然なのでしょう。国民国家は時代遅れなのでしょう。国境は無いほうがいいのでしょうか。民族(nation)のアイデンティティを大事にするのは排外主義なのでしょう。

自由貿易によって、賃金の安い国で商品を生産し輸入すれば、消費者は安く商品を購入する利点があると主張がなされます。だから商品、金、情報、人の出入りを自由にする自由貿易に反対するのは、自分の首を絞めるような愚かなことだと。

しかし、自国内で生産するのではなく、工場を移転し他国で生産することによって、あるいは自国内に安い賃金で働く外国人労働者が多数入ってきて、自分たちの仕事は無くなります。

精神分析の創始者と目されるフロイトは、心が健康であることの条件として「愛すること。働くこと」という名言を残しています。たとえ生活保障をされ「安く物を買え」ても、心は健康にはなりません。

フランスの家族人類学者のエマニュエル・トッドは、トランプの勝利を予想した根拠として、45歳から54歳の白人の死亡率が上がったことを挙げています。彼らは、自らの境遇に絶望し飲酒やギャンブルなどで心身を壊したか、自ら死を選んだと考えられます。

彼らが仕事を失った原因としては、自由貿易や移民ではなく科学技術の進歩のほうが大きいと主張する人もいます。

確かに科学技術、特に人工知能や3Dプリンター、ロボット技術がこれから急速に進歩することは確実で、そのことは労働者の雇用に大きな影響を与えることが予想されます。

日本では、少子化でこれから人口が減少していくので、移民を今まで以上に受け入れるべきだと主張する人もいます。しかしどの程度移民を受け入れるのかは、国民のアイデンティティをどう保っていくかという問題だけではなく、今後予想される、科学技術の急速な進歩を考慮して決定すべきだと思います。

自由貿易の行き過ぎは、本来、運命共同体であるはずの国民国家の国内で生産し賃金を払うことで国民の総需要に貢献しているという連帯感を持たずに、労働者に払う賃金はコストに過ぎ

ないと考える経営者を増やすことになります。

国民国家間の交流が国際化していくのは、交通機関や情報通信技術の進歩などの科学技術の発達が背景にあり、それ自体は歴史の必然だと思います。

しかし、国際主義(internationalism)と、国境を無くそうとするグローバリズム(globalism)とは大きな違いがあり、前者は各国の歴史、文化を尊重したうえでの交流であるのに対し、後者は各国の歴史、文化という多様性を認めず、「一つ」の価値観しか認めない普遍主義です。

しかしグローバリストたちは、自分たちは多様な価値観を認めていると自賛しています。

実は彼らが認めているのは、「世界の(歴史、文化の)多様性」ではなく、多様な人種、民族の衣装や料理の多様性、あるいはせいぜい地域言語の多様性を認めているだけであり、多文化共生主義というただ「一つ」の価値観のみを認めています。

だから世界の国々がその「一つ」の価値観のみを認めて、移民を希望するすべての多様な人種、民族を受け入れることを要求し、それに少しでも疑問を表すと敏感に反応し「排外主義」とか「極右」あるいは「ヘイトスピーチ」といったレッテルを貼るのです。

トランプがそのような価値観を持っていないことも、当選した要因の一つだと考えられます。

したがってグローバリズムに対する今回のイギリス人とアメリカ人の選択に理があったことは、マス・メディアや大多数の大学人がいくら否定しても徐々に浸透してきています。

欧米のことはさておき、今後、日本人が国民国家にどのような役割を与えるのか、グローバリズムに対しどのような対応をするかを検討するうえでの教訓となったことは間違いありません。